

わ げ ん あ い ご
和 顔 愛 語

医療法人 真生会
真生会富山病院
SHINSEIKAI TOYAMA HOSPITAL

2017
vol,24

- 💡 南館増改築工事 始まる
- 💡 緩和ケア認定看護師に合格 (深谷香織看護師)
- 💡 中国との医療交流 大連・瀋陽へ
- 💡 認知症ケア会合 地域と密に連携を
- 💡 一度は行きたい! 地元のお店 口福食堂 げん太 (射水市下若)



認知症ケア会合のメンバー

南館増改築工事 始まる

より機能的で充実した診療体制を整備

秋に入り、南館の増改築工事が始まりました。南館完成から来年で10年が経ちます。環境の変化とスペースの不足に伴い、増改築のタイミングを迎えました。

◇透析室
【副院長・透析専門医 二村明広】
末期腎不全という病気で人工透析を受けている方が全国で32万人を超えました。人口約9万3千人の射水市では200名近い患者数と言われており、市民から通院の便利な透析施設が待望されてきました。当院でも地元の方をより多く受け入れる準備を進めております。このたび、25床の透析センターを開設することになりました。より安全で質の高い医療が提供できるように透析スタッフ一同取り組みでいく所存です。

機器、検査スペースが足りず、待ち時間が長いという状況を改善するため、診察検査スペースを拡張するに至りました。スタッフ一同協力してアイセクターの医療を充実させてまいります。

で、ますます多くの患者さんが来院されると思います。医事課として丁寧な対応・目配り・心配りを忘れず「来て良かった、ありがとう！」と言ってもらえるよう頑張りたいと思います。

◇心療内科
【心療内科部長 明橋大二】
現在の心療内科は管理棟1階にあり、他の診療エリアから遠いため他科との連携に課題がありました。南館に移設することでこの課題を解消することができます。また南側に玄関を設け、患者さんへの配慮をいたしました。

【看護部 楠早苗】
患者指導を行うスペースが確保でき、継続看護や視機能の相談に時間をかけた対応が可能になりました。

南館の増改築部分は来年3月末に完成、5月の連休明けから新しい場所で診療開始の予定です。

◇眼科（アイセクター）
【アイセクター長 館奈保子】
診察してほしい患者さんがいて、医師がいるのに診察室が足りない、視能訓練士がいるのに検査

【医療秘書課 岡本康宏】
医師のサポートを通して皆様の目の健康に、より貢献できるように努めてまいります。

【医事課 川西智子】
現在の6診から11診になるの



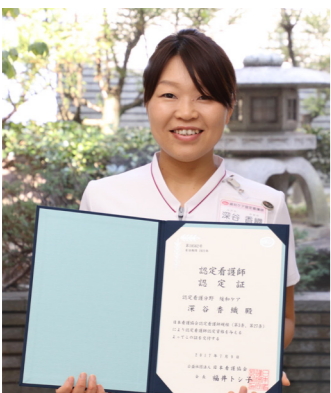
完成予想図

緩和ケア認定看護師に合格

わかば病棟 深谷香織 看護師

特定分野において、熟練した看護技術と知識を用いて水準の高い看護を実践できる看護師であることを認定する制度が認定看護師制度です。当院では現在、緩和ケアの分野で長久米子看護師、感染管理の分野で梅田加洋子看護師の2名が活躍しています。今回3人目となる深谷香織看護師が緩和ケア認定看護師の試験に合格しました。合格までの経緯と、これからの目標・夢についてインタビューしました。

Q、合格まで、どのような活動をしてきたのでしょうか。



認定証を手にする深谷看護師

A、現在はがん診断を受けた時から、早期に緩和ケアを受けることが自然になってきています。緩和ケア認定看護師は、抗がん剤治療や放射線療法などの専門的治療の知識を有し、情報が必要な患者、家族に継続的に関わります。またがんそのものや、がん治療に伴う痛みや吐き気、倦怠感などの症状緩和を行います。加えて、精神的苦痛の傾聴を含めたトータルケアを行います。がんと共に生きる中で、様々な苦痛が伴いますが、患者、家族が安心・安楽に、その人らしく過ごせるように関わり、サポートします。今日では心不全や慢性疾患など治療できない患者、家族にも関わるようになっていきます。

長久看護師の妥協せずにひたすら学ぶ姿勢、患者、家族への対応力、スタッフへの適切な指導、高度な推進力をそばで見ている、私も近づきたいと思いました。

Q、今後どのようなことに取り組もうと思っておりますか？

A、まず院内で緩和ケアに携わりながら、より知識や技術を身につけていくことを目標にします。いずれは地域貢献のため院外で緩和ケアの普及、がん予防対策を推進していきたいと考えています。具体的には小中学校で命の授業をしたいと考えています。現代は2〜3人に1人ががんになる時代です。小児のがん教育やがんの方への接し方を伝える中で、多くの方に緩和ケアを知ってもらい、将来医療に携わりたいと感じる子どもが増えることを願っています。

Q、院内から院外へと、これからの展開が楽しみです。最後に一言お願いします。

A、緩和ケア認定看護師資格取得は、私にとっても大きな壁でしたが、それを乗り越える過程で大きく成長できたと感じています。これに満足せず、認定看護師としての資質、専門性をより高め、努力したいと思います。

当院で、これからのいろいろな分野の認定看護師が増えることを期待しています。



わかば病棟のスタッフと



中国との医療交流 大連・瀋陽へ

7月26日(水)から8月2日(水)までの約1週間、館奈保子医師(アイセーター長)、中村哲二課長(渉外課・広報課)、宮下麗娜医療通訳士(渉外課)、齋藤美世(P.T.S推進室・広報課)の4名が中国に行ってきました。今回の渡航目的は、どのようなものだったのでしょうか。1週間の滞在を振り返ってみたいと思います。

富山ゆかりの地・大連

大連は中国・遼寧省にある都市です。遼寧省と富山県は友好関係を結んで30年以上が経ちます。現在、大連へは富山空港から週に2回の直行便が運行し、約2時間半のフライトで到着します。北陸新幹線で富山から東京へ行くほどの時間で着いてしまいます。一行はまず、大連医科大学松



谷照斌教授(左から2番目)の病院で

江路眼科センターに向かいました。こちらは真生会に何度も来られている谷照斌教授(大連医科大学)の病院です。

平成26年、当院は大連医科大学と医療技術交流のために協力関係を結びました。館センター長は大連医科大学の客員教授に任命され、谷教授を当院にお迎えして調印式・授与式が盛大に執り行われ

ました。今回の私たちの訪問を温かく迎えてくださり、谷教授の笑顔に異国の地への不安が一気にほぐれました。

「瀋陽市国際眼科新技術学会」で講演

訪中の大きな目的が、瀋陽市第四人民医院(以下、第四人民医院)で行われた瀋陽市国際眼科新技術学会です。こちらで館センター長の講演がありました。瀋陽市は遼寧省の省都です。大連駅から高速鉄道(日本の新幹線にあたる)に乗り、約2時間で瀋陽駅に到着しました。

第四人民医院と当院は、平成27年に友好協定を結びました。第四人民医院には100名以上の眼科医師が在籍し、眼科が強い病院です。平成27年の友好協定から現在までに3名の中国人眼科医師が当



こちらの学会では3回目となる館センター長の講演

院アイセーター(眼科)で研修を終えています。その中で二番目に研修に来られたのが、陳静乙先生です。研修中は医療技術だけでなく患者さんに接する姿勢も学び、「館先生は一からすべて教えてくれた。とても感謝している。もっと向上したい」と語っておられました。第四人民医院では、調印式で真生会に来られた王海林先生はじめ医師の皆さんにもお会いすることができ、再会を喜びました。

広報活動その1 富山県大連事務所・総領事館を訪問

訪中のもう一つの目的は、中国の患者さんが真生会で治療を受けられるように、広報することです。今回2ヶ所の公的機関、富山県大連事務所(大連市)と、在瀋陽日本国総領事館(瀋陽市)の訪問が実現しました。当院が中国の病院と友好協定を結んでいることや、JMIP(外国人患者受入れ医療機関認証制度)受審を目指していることなど、お話ししてきました。在瀋陽日本国総領事館では奥正史領事より、最近の瀋陽の動



領事館前で奥領事(右から2番目)と記念撮影

向についてお聞きしました。

中国では2007年に観光旅行が解禁され、今年で10年が経ちます。在瀋陽日本国総領事館で発行するビザの数は年間19万とのことですが、観光ビザと個人ビザの数を比較すると、北京や上海などの大都市では個人ビザの比率が増えてきているそうです。この動きはやがて瀋陽にも波及し、団体旅行でメジャーな観光地に行く(観光ビザの取得)よりも、地方で他の人がしないことをしたい(個人ビザの取得)というニーズが増加するのではないかと予測されています。「真生会富山病院があるから富山に行きます」と、当院をきっかけに富山を訪れる中国人が増えることによって、私たちも一緒に富山県を盛り上げることができれば、中国との医療交流はさらにすばらしい活動になるのではないかと思います。

広報活動その2 中国人患者への宣伝

もう一つの広報活動として、中



当院を紹介する中村課長(右)と宮下さん(左)

国人患者を対象とした説明会を大連・瀋陽で計4回行いました。この説明会は、日本で医療を受けたいと関心を持っている方に向けて行ったものです。この広報活動に協力してくださったのが、大連の呂呈剛さんです。呂さんは旅行や医療コーディネーターの会社を経営する社長さん。東京を中心に、日本国内の100ヶ所以上の医療機関と付き合いがあります。呂さんは、「中国人患者にも、受け入れ先の医療機関にも、どちらにとっても利益があるように」との考え方をもち、相手の立場に立った言動をされる方です。そんな呂さんならば、説



まるで兄弟!?のような呂さん(左)と中村課長(右)

明会のコーディネートを安心して任せられると確信し、タッグを組むことになりました。説明会の前半は、中村課長が宮下さんの通訳で真生会や富山県をPR。宮下さんは瀋陽出身で、中国との医療交流には欠かせない存在です。中村課長は「一度、真生会に来てもらいたい!」と参加者に熱く訴えました。後半は、館センター長と参加者との個別面談。めったにない機会のため、参加者は今か今かと自分の順番を心待ちにしていました。今回の活動を通じて、一人でも多くの中国人が来院することを期待しています。

(次のページに続く)

中国人患者さんとの再会

大連では、真生会で治療を受けた中国人患者さんとも再会しました。一人は銭さんです。館センター長の中国出張を聞きつけ、前回に続いてホテルへ探しに来られたのでした。もう一人は劉さんです。お二人とも真生会で目の手術をされ、大変満足された方々です。「お世話になった先生にお礼を言いたい」と館センター長を慕うお二人の姿に、医療が果たす役割の大きさを肌で感じました。



館センター長との再会を喜ぶ銭さん

【中国滞在を終えて】
【アイセンター長 館奈保子】

人も車もあふれかえり、車列の

中をかくくぐるように道路を横断する歩行者。病院もまた喧騒の中で、自分と家族の大切な命を守ろうと、皆必死なのを肌で感じます。

病院の研究施設は市民病院なのに大学並みの設備で、前回来たときにはガランと建物だけだったのに、今回は着実に成果を上げて来ている様子。よい刺激を受けて、こちらもさらに向上していかねばと決意を新たにしました。



第四人民医院の病棟で患者さんを診察

【渉外・広報課長 中村哲二】

取得に向け動き出したJ-MIP（外国人患者受入れ医療機関認証制度）は、今のところ富山県初の

試みです。海外の方との関わりも真生会だからやらねばならないと思いますし、真生会のスタッフだからできるかと自負しています。近隣の患者さんだけでなく、海外の患者さんにも喜んでいただける病院にしていきたいと思っています。

【渉外課 宮下麗娜】
日中友好で、中国人の来日数は毎年増え、特に治療の目的で来られる方がますます多くなっています。真生会の理念を中国に伝えて、多くの中国人患者が安心して日本で治療を受けられるように頑張りたいと思います。

【PTS推進室・広報課 齋藤美世】
中国では紹介状の制度が普及しておらず、カルテシステムもないため、病気を治してくれる医師とめぐり会えるまで自分で探さなければならぬそうです。世界に目を向けると日本で高い水準の医療を受けられることが当たり前ではないと知らされます。当院の医療を国内外に発信できるように、広報活動をしていきたいと思っています。

【中国滞在を終えて】
【アイセンター長 館奈保子】
人も車もあふれかえり、車列の中をかくくぐるように道路を横断する歩行者。病院もまた喧騒の中で、自分と家族の大切な命を守ろうと、皆必死なのを肌で感じます。病院の研究施設は市民病院なのに大学並みの設備で、前回来たときにはガランと建物だけだったのに、今回は着実に成果を上げて来ている様子。よい刺激を受けて、こちらもさらに向上していかねばと決意を新たにしました。

中国の思い出写真集



とても広々とした
高速鉄道のホーム



街で果物屋さんを
よく見かけました



認知症ケア会合 地域と密に連携を

日本は超高齢社会を迎え、2025年には高齢者の5人に1人は認知症になると予想されています。それは決して高齢者だけの問題ではなく支える側の問題でもあります。「認知症になったら人生終わり」という誤ったイメージや偏見があると早期発見や周囲の支援が遅れます。「その人らしい暮らし」を支援するためにも私達が正しい知識と接し方を学ぶことはとても重要になりますので、当院では認知症ケア会合を設けて活動を開始しました。

認知症ケア会合は、医師、看護師、医療ソーシャルワーカー、来院者を案内するフロアマネジャー、健診科職員と多職種からなり（※表紙の写真）、患者さんご家族の暮らしに寄り添った認知症ケアを目指し地域との連携を大切にしながら活動しています。主な取り組みを紹介します。

① 認知症ケアカフェの開催

「カフェ・なでしこ」というネーミングで、大門・大島地域包括支援センターやボランティアの方と協同で取り組んでいる認知症ケアの啓発活動です。院内のレストラン「グリーンハット」にて、ティータイムを楽しみながら参加者の語りを通して認知症の理解を深めていく交流の場となっています。

12月は下記の日程でカフェ開催



認知症カフェはグリーンハットで開催

日時 .. 12月14日（木）

14時30分～16時30分

参加費：400円（茶菓子セット付）

申込み：事前申込み制

場所 .. 真生会富山病院

レストラングリーンハット

② もの忘れ・認知症相談会の開催

地域包括支援センターが射水市内で開催する「もの忘れ・認知症相談会」の会場として、当院でも年に3～4回行われています。地域包括支援センターの認知症地域支援推進員が相談に応じてくださいます。「同じことを繰り返す話」「もの忘れが気になる」「どう接したらいいの?」「診察はどこで受ければいいのか?」など、気になる症状や心配事をお気軽にご相談いただけます。

当院での次回開催予定日は、12月14日（木）、10時～12時です。

③ 認知症相談の受付

困っておられることを伺い、一緒に考え、かかりつけ医や地域包括支援センターなどへの橋渡しをしていきます。（予約制です）

④ 認知症サポーター養成講座

地域のケアマネジャーさんのご協力のもと、当院で認知症サポーター養成講座を開催。約100名の職員が認知症サポーターとなりました。今後は、地域で開催されるサポーター養成講座に協力していきたいと考えています。



認知症サポーター養成講座では、会合メンバーが患者役、スタッフ役としてロールプレイに出演

診療案内

診療科

内科、外科、小児科、整形外科、耳鼻咽喉科、皮膚科、眼科、麻酔科、心療内科、精神科、神経内科、放射線科、泌尿器科、消化器内科、呼吸器内科、リハビリテーション科、腎臓内科、血液内科、循環器内科、糖尿病・代謝内科、緩和ケア内科、真生会デンタルクリニック（歯科）

受付・診療時間

【午前外来】平日・土曜日

受付 8:00 ~ 11:30

（各科窓口 8:30 ~ 診察 9:00 ~）

※午前のみ、7:30 ~ 整理券を配布

正面玄関の解錠時間は 7:30 です。

診療時間以外は、時間外出入り口をご利用ください。

【昼外来】

アイセンター（眼科）のみ

受付 13:30 ~ 16:00（診察 14:00 ~）

※火曜日のみのお受付です。

小児科のみ

受付 15:00 ~ 17:00（診察 15:00 ~）

※火、木曜日のみのお受付です。

【夕方外来】月、水、金曜日のみ

受付 16:00 ~ 19:00

（各科窓口 16:30 ~ 診察 17:00 ~）

※皮膚科、小児科、耳鼻咽喉科の窓口

受付は 16:15 から、診察は 16:30 から行います。

【休診日】土曜日午後、日曜日、祝日

休診時間帯は、当番医師が待機しております。

敷地内全面禁煙を実施しています。



ご理解とご協力をお願いいたします。

一度は行きたい！

地元のお店



豚かば焼き重 850円（税別）

今年3月、当院の近くにオープンした「口福食堂げん太」さん。オーナーの皆元徹さんはお肉に高温の炭火で焼き、自家製だれで3度つけ

肉と酒と人情 口福食堂 げん太



口福の宴（全10品）
お一人様 2,500円（税別）

げん太人気No.1
※3名様から要予約です。

こだわり、信頼する精肉店から旨味の強いお肉を仕入れていきます。お昼は名物の『豚かば焼き重』をはじめ、『和牛すじカレー』や『日替わり定食』を提供しています。夜は炭火串焼き中心の居酒屋として営業しています。夜でも定食やお重が食べられるため、

アクセス

【住所】射水市下若 75-1

【TEL】(0766)30-2990

【営業時間】

昼 11:30 ~ 14:30

（14:00 ラストオーダー）

夜 17:00 ~ 0:00

（23:30 ラストオーダー）

【定休日】水曜日

※水曜日が祝日、大型連休の場合は営業いたします。



お店の内装

お一人でも、ご家族連れでも、お食事にぜひご利用ください。

編集後記

中国では、食べきれないほどの中華料理を前にして「食べなければ！」と一生懸命になっていましたが、少し残すのがマナーと帰国してから知りました。文化の違いを学び、海外の方にも頼りにされる真生会でありたいと思います。

〒939-0243 富山県射水市下若 89-10

TEL 0766-52-2156 FAX 0766-52-2197

<https://www.shinsekai.jp/>

平成 29 年 11 月 第 24 号発行

発行・編集／真生会富山病院 広報課